

会計・監査モデル分析

若林 利明 教授

1. 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

契約理論(ないしエイジェンシー理論)に依拠する数理モデル分析を通じて、営利非営利を問わず、組織における会計現象(会計情報が組織行動に及ぼす影響)を説明するための研究を行っている。具体的な研究テーマは、マネジメント・コントロール理論の拡張と組織に対するアイデンティティ(帰属意識)の役割について、人的資本経営とサステナビリティ情報開示のリアルエフェクト、経営者報酬契約とFRINGE BENEFIT 課税、競争戦略とサプライチェーンマネジメントなどが挙げられる。

2. 指導方針

1年生は基本的な研究書や論文を読み進めることによって、会計・監査の数理モデル分析の方法論を習得しながら、各自の興味に応じて修士論文のテーマを絞り込む(テーマ選択はその後の研究パフォーマンスに強く影響するので、きわめて重要なプロセスである)。2年生は、各自が設定したテーマに沿った修士学位論文の完成のために必要となる諸文献を理解しながら分析を進め、最終的に論文を完成させる。

3. 学生に対する要望・その他

研究方法としてマイクロ経済学の理論に依拠した数理モデル分析を用いるために、微積分、線型代数、および確率・統計が理解されており、マイクロ経済学が既習であることが望ましい。入学時における数学や経済学の理解度に関わらず、自ら積極的にこれらのスキルを向上させる姿勢は不可欠である。修士課程は期間が短いので、短期集中の努力が必要であることを理解してほしい。また、数理モデルはあくまで分析ツールであるので、分析対象である会計・監査制度、社会や経済、個々の企業の動向やそこで活動する人間に対する興味関心も求められる。